

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	
平成22年4月6日入学式学長式辞	2
平成22年度入学者数	2
平成21年度医学博士授与者（前期・後期）	3
○ 人 事	
企画室・評価室・知的財産管理活用オフィス・危機管理室・名誉教授・新任准教授・ 新任講師・新任事務局職員等	5
新任あいさつ	7
・副理事長（企画・人材開発担当） 竹之下 誠一	
・理事（教育・研究担当）兼副学長 阿部 正文	
・理事（医療担当）兼附属病院長 村川 雅洋	
・理事（会津医療センター担当）兼会津医療センター準備室長 棟方 充	
・理事（管理運営担当）兼事務局長 藤島 初男	
・医学部長 大戸 齊	
・看護学部長 鈴木 順造	
・看護学部 総合科学部門長 亀田 政則	
・看護学部 生命科学部門長 本多 たかし	
・医学部 医学研究科長 和田 郁夫	
・総合科学教育研究センター長 安村 誠司	
・附属学術情報センター長 上田 和毅	
・医療人育成・支援センター長 福島 哲仁	
・医学部附属実験動物研究施設長 片平 清昭	
・トランスレーショナルリサーチセンター長 和栗 聡	
・寄附講座 医療工学講座 特任教授 尾股 定夫	
・医学部 器官制御外科学講座 教授 鈴木 眞一	
○ 諸 規 程 改 正	
平成22年2月から5月までの諸規程の制定改廃関係	13
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	
役員会	14
経営審議会	15
教育研究審議会	15
医学部教授会	15
看護学部教授会	15
○ 雑 報	
倫理委員会の会議概要のWEB化について	16
寄附講座の開設について	16
講座の新設について	16
学生の部活動報告（管弦楽団）	16

学 事

■平成22年4月6日 福島県立医科大学 入学式

学長式辞

福島県立医科大学長 菊地 臣 一

本日ここに、福島県立医科大学及び大学院に入学を許可されました皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。私たち教職員は、皆さんそれぞれの夢や志の実現のために、あらゆる面で応援いたします。また、本日の慶びにいたる道のりを温かく見守り、励まし、導いてこられた保護者の皆様や先生方には、お子様や教え子の晴れ姿を前に、これまでの歩みを振り返り万感胸に迫るものがあるかとお察し致します。

入学式とは「未来の覚悟」を表明する場です。今日、新たな一歩を踏み出した皆さん、本学での出会いを大切にしてください。人生は出会いに尽きます。何故なら、“人生の扉は他人が開く”からです。どの出会いが自分にとって大切かはその時はわかりません。だからこそ、一人一人の出会いに真摯に向き合うことが大切です。出会いは自分を成長させ、そして人生を豊かにしてくれます。「出会い」に運命的な出会いなどというものはなく、出会った後に、お互いが相手に信頼と敬意を持って接する長い日々の営みの積み重ねが「掛け替えない友や恩師」を作っていくのです。

将来、皆さんが医療人として向き合う相手は、理不尽にも突然の病に苦悩している人々です。不条理と矛盾に満ちた医療や看護の現場において、プロとしての医療人に求められるのは、共感の提示と病める人々を包容できる人間的な豊かさです。医療人として求められるプロフェッショナルリズムとは、まず、目的に対する単純強固な意志です。第二に、低い水準における満足感の拒否です。第三に、栄光の影の骨身を削る努力です。最後に、自らの努力無くして人生の果実を期待しないことです。このプロの精神を、これからの日々、胸に刻んで学生生活を送って下さい。今日からは、君達は「何になったか」ではなく「何をしたか」が問われるのです。学びの日々の中で、皆さんはこれから様々な挫折を味わう筈です。その時、自分が入学式で何を目的にその場にいたのか、原点を思い出して動く生きていって下さい。恐れたり怯むことはありません。人間は、皆失敗しながら生きているのです。そして、幾ばくかの苦悩や喪失を日々繰り返しています。「挫折の数だけ動く、そして優しくなれる」ことを信じて頑張ってください。人間というものは、人生が配ってくれたカードでやっていくもので、配られたカードが悪いと愚痴をこぼしたりするもの

ではありません。人生こうしようあしよう計画を立てて、自分の人生を考えても、その通りになることはありません。殆ど違った方向へ行ってしまう。でも、大切なことはその場その場で自分のベストを尽くすことなのだと思えます。

私の医療従事者としての長い経験から、世の中には変わるものも多いが、変わらないものも少なくない、というのが実感です。その中から皆さんに三つの言葉を贈ります。一つは、「愚直なる継続」です。これを実行するには鉄のような意志が必要です。何でもよいですから、毎日継続できるものを決めて取り組んでみて下さい。毎日5分間、本を開くことでも結構です。大切なのは、本を読み理解することではなく、開くだけでよいのです。その積み重ねを3年間続けると、もはや誰も到達できない境地に達することが出来ます。プロとしての医療人にとっては、愚直なる継続が最大の武器であり、大成する王道です。もう一つは「修行とは矛盾に耐えること」です。それに耐えられなければ医療のプロとして一人前にはなれません。「大事争うべし、些事構うべからず」です。先輩や教師は、皆さんがひたむきに努力している姿をみると、皆さんを愛しく思い、教え育もうという熱意を持てるのです。双方の熱意がぶつかり合って初めて「人生の扉は他人が開く」という先人の知恵が皆さんに微笑むのです。最後に、「誇り」です。誇りは、人生の道々で出会うであろう様々な苦難に立ち向かうとき、自分を支えてくれる最大、そして唯一の拠り所になります。頭を下げないことが「誇り」ではなく、頭を下げた後に残るものが真の「誇り」です。君達がこれから身につける白衣は、着る者に覚悟を強めます。白衣は君達に誇りを持つこと、そして厳しさに耐えることを求めています。

福島県立医科大学は、母体となった福島県立女子医学専門学校が創立されて以来、六十有余年の歴史があります。この歴史の続きには、真っ白なページが無限に用意されています。福島県立医科大学の歴史に新たなページを書き足すのは、今ここにいる皆さんです。皆さんがどのようなページを書き足すのか、私たちは今から楽しみにしております。無限の可能性を秘めた皆さんの、今後の成長に期待して式辞といたします。

■平成22年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生105名

	男	女	計
県内	33名	11名	44名
県外	42名	19名	61名
計	75名	30名	105名

② 看護学部新入生93名（うち3年次編入生7名）

※（ ）内書きは編入生

	男	女	計
県内	8名(1名)	67名(3名)	75名(3名)
県外	1名(0名)	17名(4名)	18名(4名)
計	9名(1名)	84名(6名)	93名(7名)

③ 大学院新入生45名

	男	女	計
医学研究科(博士)	17名	11名	28名
医学研究科(修士)	5名	1名	6名
看護学研究科(修士)	1名	10名	11名
計	23名	22名	45名

看護学研究科

がん看護学領域	1名
生態看護学領域	3名
精神看護学領域	1名
母性看護学領域	2名
地域看護学領域	4名

■ 平成21年度医学博士授与者

前期〔平成21年9月授与〕

氏名 学位 論文名

小田島洋子	Prediction of Sensitivity to 5-fluorouracil by quantitative measurement of 5-fluorouracil metabolism relating gene expression in gastric and colorectal cancer. (胃癌・結腸癌における代謝関連酵素遺伝子発現からみた5-FUの感受性予測)
粕谷 泰道	Separate Demonstration of Arterial-and Venous-Phases by 3D-CT Angiography for Brain Tumors Using 64-Multidetector Row CT : 3D-CT Arteriography and 3D-CT Venography. (脳腫瘍に対する64列 multi-detector row CTを用いた3D-CTAにおける動脈相と静脈相の分離画像：3D-CT Arteriography及び3D-CT Venography)
今村 秀道	Echo-endoscopic analysis of variceal hemodynamics in patient with isolated gastric varices. (超音波内視鏡による孤立性胃静脈瘤血行動態の検討)

上北 洋徳 Integral Role of Receptor for Advanced Glycation End Products (RAGE) in Nondiabetic Atherosclerosis.
(非糖尿病性動脈硬化病変における RAGE の役割)

鈴木 一裕 下部尿路閉塞と利尿に対する膀胱の反応様式-ラット部分閉塞膀胱モデルを用いた検討-

矢崎 順二 $\alpha 1$ -アドレナリン受容体遮断薬の下部尿路からの求心性刺激に対する抑制効果

後期〔平成22年3月授与〕

氏名 学位 論文名

工藤 聖美 Nerve growth factor in saliva stimulated by mastication.
(唾液中の神経成長因子 Nerve growth factor 排出量は咀嚼によって促進される)

大河内真之 Experimental Study on Accumulation of Lipoprostaglandin E1 at the Regions of Anastomosed Blood Vessel.
(リポプロスタグランジン E 1 の血管吻合部での集積についての実験的検討)

小林 洋 Interaction of 5-hydroxytryptamine and tumor necrosis factor- α to pain-related behavior by nucleus pulposus applied on the nerve root in rats.
(ラット髄核留置モデルにおけるセロトニンと TNF- α の相互作用)

田中 健一 Skin-autofluorescence, a Noninvasive Measure of Advanced Glycation Endproducts, is Related to Cardiovascular Disease in Japanese Hemodialysis Patients.
(本邦の血液透析患者における AGE 蓄積(皮膚オートフルオレッセンス)と心血管病との関連について)

清水 裕史 Bioengineering of a functional sheet of islet cells.
(機能的膵島細胞シートの作成)

岡野 渉 Mucosal regeneration on bio-engineered scaffolds containing fibroblasts in a rabbit model of partial tracheal defect.
(ウサギ気管部分欠損モデルにおける線維芽細胞含有人工気管を使用した気管再生)

岡山 洋和 Ectopic expression of MECA-79 as a novel prognostic indicator in gastrointestinal cancer. (消化管癌における新たな予後因子としての異所性 MECA-79発現)

佐藤 雄	胃癌および大腸癌における Annexin A1の発現解析とその臨床的意義	穴澤 貴行	Improved Pancreatic Islet Yield and Function with a Chloride Channel Blocker during Collagenase Digestion. (コラゲナーゼによる膵消化中のクロライドチャンネル阻害剤投与は膵島分離収量と膵島機能を改善する)
早瀬 傑	Enhanced L-type amino acid transporter 1 expression is involved with cellular proliferation in human colon cancer. (大腸癌における L-type amino acid transporter 1 の高発現は細胞増殖に関係する)	小野孝一郎	転写因子による骨格形成制御に関する研究：軟骨細胞分化過程における転写調節因子 Dmrt2の役割
坪井 聡	The relationship between clustering health-promoting components of lifestyle and bone status among middle-aged women in a general population. (中・高年期の一般女性における健康増進要因の集積と骨の状態との関連)	佐藤 友香	単純ヘルペスウイルス 1 型の suppressor of cytokine signaling 発現機構の解析
佐々木信幸	EFFECTS OF ASIALO - ERYTHROPOIETIN ON PAIN-RELATED BEHAVIOR AND EXPRESSION OF PHOSPHORYLATED-P38 MAP KINASE AND TUMOR NECROSIS FACTOR-ALPHA INDUCED BY APPLICATION OF AUTOLOGOUS NUCLEUS PULPOSUS ON NERVE ROOT IN RAT. (ラット神経根に髄核を留置したことにより生じる疼痛関連行動とリン酸化型 P38 と TUMOR NECROSIS FACTOR-ALPHA (TNF- α) の発現に対するアシアロエリスロポエチンの効果についての検討)	國井 泰人	Detailed DARPP-32 expression profiles in Post-Mortem Brains with Schizophrenia: An Immunohistochemical Study. (統合失調症死後脳における DARPP-32の詳細な免疫組織化学的プロフィール)
花見 由華	皮膚悪性黒色腫原発巣における D2-40/Melan A 二重染色法を用いたリンパ管浸潤評価法と生命予後との関連に関する研究	塩見 誉	伸展で誘発される Rho-kinase の活性化と膀胱平滑筋トーンスおよび膀胱コンプライアンスの関係
若槻 妙子	ブレオマイシン誘導性強皮症モデルマウスにおける transforming growth factor- β (TGF- β) を標的とした新規治療法の試み	川島 洋平	ヒト膀胱平滑筋細胞における、LPA の細胞増殖作用と伸展刺激により誘導される JNK 活性化への関与について
岡田 良	走査型ハプティック顕微鏡による障害肝組織の弾性率分布イメージング	佐藤 善之	Intraoperative mechanical ventilation affects cardiac surface motion during beating heart surgery. (術中人工呼吸は、心拍動下心臓手術における心表面運動に影響を及ぼす)
小船戸康英	UHRF1 expression was up-regulated and associated with cellular proliferation in colon cancer. (大腸癌における UHRF 1 の発現解析および増殖への関与)	古田 歩	Objective perimetry using functional magnetic resonance imaging in patients with visual field loss. (視野欠損患者における機能的磁気共鳴画像を用いた他覚的視野検査)
押部 郁朗	Adenine nucleotide levels in a closed enzymatic digestion system for porcine islet isolation. (膵島分離過程における回路内膵消化液中のアデノシン測定の意味)	根本 千秋	Effects of Dexmedetomidine, Midazolam and Propofol on Acetylcholine Release in the Rat Cerebral Cortex in vivo. (デクスメドミジン、ミダゾラムおよびプロポフォールのラット大脳皮質におけるアセチルコリン放出に及ぼす影響)
佐藤 純	Gene Expression Analysis for Predicting Gemcitabine Resistance in Human Cholangiocarcinoma. (ヒト胆道癌における gemcitabine 抵抗性に関する遺伝子発現解析と検討)	石井 証	Comparison of pancreatic islets after preservation in cold UW solution and conventional culture. (インスリン分泌能に基づいた膵島の24時間培養と UW solution による冷保存との比較評価)
		塚田 学	A model to evaluate toxic factors to islets during collagenase digestion-a role of serine protease inhibitor on protection of islets. (膵島分離を目的とした膵コラゲナーゼ消化過程における膵島障害の解明とセリンプロテアーゼ阻害剤の保護効果)

高梨 靖子 成人広汎性発達障害における注意欠陥／多動性障害に関する医師評価と患者自己評価
 酒井多喜夫 閉塞膀胱モデルでの膀胱リモデリング、収縮機能低下に対するアンジオテンシンⅡタイプ1受容体の関与－アンジオテンシンⅡタイプ1受容体遮断薬の効果－

人 事

(平成22年6月1日現在)

◎役員

H22.4.1 副理事長(企画・人材開発担当) 竹之下誠一
 H22.4.1 理事(教育研究担当) 阿部 正文
 H22.4.1 理事(経営・渉外担当) 平子 健
 H22.4.1 理事(医療担当) 村川 雅洋
 H22.4.1 理事(会津医療センター担当) 棟方 充
 H22.4.1 理事(管理運営担当) 藤島 初男
 H22.4.1 監事 高橋 宏和
 H22.4.1 監事 佐藤 喜一

◎経営審議会委員

H22.4.1 議長 菊地 臣一(理事長)
 H22.4.1 委員 竹之下誠一(副理事長)
 H22.4.1 委員 平子 健(理事)
 H22.4.1 委員 村川 雅洋(理事)
 H22.4.1 委員 藤島 初男(理事)
 H22.4.1 外部委員 玄侑 宗久
 H22.4.1 外部委員 根本 良一
 H22.4.1 外部委員 林 由美子
 H22.4.1 外部委員 前原 和平
 H22.4.1 外部委員 渡辺 健寿

◎教育研究審議会委員

H22.4.1 議長 菊地 臣一(理事長)
 H22.4.1 委員 阿部 正文(副学長)
 H22.4.1 委員 大戸 齐(医学部長)
 H22.4.1 委員 鈴木 順造(看護学部長)
 H22.4.1 委員 村川 雅洋(理事)

H22.4.1 委員 和田 郁夫(医学研究科長)
 H22.4.1 委員 横田 素美(看護学研究科長)
 H22.4.1 委員 上田 和毅(附属学術情報センター長)
 H22.4.1 委員 本間 好(医学部附属生体情報伝達研究所長)
 H22.4.1 委員 竹之下誠一(副理事長)
 H22.4.1 委員 藤島 初男(理事)
 H22.4.1 委員 細矢 光亮(附属病院副病院長)
 H22.4.1 委員 錫谷 達夫(医学学生部長)
 H22.4.1 委員 太田 操(看護学学生部長)
 H22.4.1 委員 福島 哲仁(医学部教授)
 H22.4.1 委員 亀田 政則(看護学部教授)
 H22.4.1 外部委員 金澤 一郎
 H22.4.1 外部委員 川原 礼子

◎企画室

H22.4.1 室長 竹之下誠一(副理事長)
 H22.4.1 副室長 和栗 聡(医学部教授)
 H22.4.1 室員 福島 哲仁(医学部教授)
 H22.4.1 室員 齋藤 清(医学部教授)
 H22.4.1 室員 紺野 慎一(医学部教授)
 H22.4.1 室員 岡田 達也(医学部教授)
 H22.4.1 室員 結城美智子(看護学部教授)
 H22.4.1 室員 清水 勝夫(事務局次長)

◎評価室

H22.4.1 室長 平子 健(理事)
 H22.4.1 副室長 平岩 幸一(医学部教授)

H22.4.1 室員	挾間 章博 (医学部教授)	H22.4.1 室員	武田 和也 (医事課長)
H22.4.1 室員	大平 弘正 (医学部教授)	H22.4.1 室員	仁志 宏 (医療連携・相談室長)
H22.4.1 室員	岡田 達也 (医学部教授)	H22.4.1 室員	北原 和子 (附属病院看護部長)
H22.4.1 室員	眞壁 玲子 (看護学部教授)	◎トランスレーショナルリサーチセンター	
H22.4.1 室員	清水 勝夫 (事務局次長)	H22.4.1 センター長	和栗 聡 (医学部教授)
◎知的財産管理活用オフィス		◎部局長等	
H22.4.1 室長	平子 健 (理事)	兼務 H22.4.1 副学長	阿部 正文 (理事)
H22.4.1 副室長	錫谷 達夫 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 学生部長	阿部 正文 (理事)
H22.4.1 室員	和栗 聡 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 附属病院長	村川 雅洋 (理事)
H22.4.1 室員	橋本 康弘 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 医学部長	大戸 斉 (医学部教授)
H22.4.1 室員	宇川 義一 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 看護学部長	鈴木 順造 (看護学部教授)
H22.4.1 室員	飯田 知弘 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 医学研究科長	和田 郁夫 (医学部教授)
H22.4.1 室員	本間 好 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 看護学研究科長	横田 素美 (看護学部教授)
H22.4.1 室員	本多たかし (看護学部教授)	兼務 H22.4.1 総合科学教育研究センター長	安村 誠司 (医学部教授)
H22.4.1 室員	松岡 有樹 (医学部教授)	兼務 H22.4.1 事務局長	藤島 初男 (理事)
H22.4.1 室員	清水 勝夫 (事務局次長)	兼務 H22.4.1 附属学術情報センター長	上田 和毅 (医学部教授)
◎危機管理室		兼務 H22.4.1 医療人育成・支援センター長	福島 哲仁 (医学部教授)
H22.4.1 室長	藤島 初男 (理事)	兼務 H22.4.1 会津医療センター準備室長	棟方 充 (理事)
H22.4.1 室員	清水 勝夫 (事務局次長)	兼務 H22.4.1 医学部附属生体情報伝達研究所長	本間 好 (医学部教授)
H22.4.1 室員	堀切 豊 (附属病院事務部長)	兼務 H22.4.1 医学部附属放射性同位元素研究施設長	本間 好 (医学部教授)
H22.4.1 室員	佐藤 正尚 (総務課長)	兼務 H22.4.1 医学部附属実験動物研究施設長	片平 清昭 (医学部准教授)
H22.4.1 室員	井出 孝利 (企画財務課長)	◎新任教授	
H22.4.1 室員	中高 克郎 (学生課長)	採用 H22.4.1 医学部自然科学講座	志村 清仁
H22.4.1 室員	五十嵐宏治 (病院経営課長)	昇任 H22.6.1 医学部器官制御外科学講座	鈴木 眞一

◎新任准教授

昇任 H22.4.1	医学部腎臓高血圧・ 糖尿病内分泌代謝内科学講座	佐藤 博亮
昇任 H22.4.1	附属病院性差医療センター	小宮ひろみ
採用 H22.4.1	看護学部生命科学部門	森 努
採用 H22.4.1	看護学部生態看護学部門	増田 元香
昇任 H22.5.1	医学部循環器・血液内科学講座	齋藤 修一
昇任 H22.5.1	医学部循環器・血液内科学講座	小川 一英
昇任 H22.5.1	医学部消化器・リウマチ膠原病内科学講座	小林 浩子

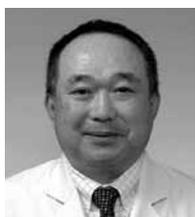
◎新任講師

昇任 H22.4.1	医学部微生物学講座	金子 久俊
採用 H22.4.1	医学部腎臓高血圧・ 糖尿病内分泌代謝内科学講座	旭 浩一
採用 H22.4.1	医学部臓器再生外科学講座	土屋 貴男
採用 H22.4.1	医学部感染制御・臨床検査医学講座	山本 夏男
昇任 H22.5.1	医学部循環器・血液内科学講座	鈴木 均
昇任 H22.5.1	医学部循環器・血液内科学講座	中里 和彦
昇任 H22.5.1	医学部消化器・リウマチ膠原病内科学講座	片倉 響子

◎新事務局職員等

発令 H22.4.1	事務局次長兼法人経営室長	清水 勝夫
転入 H22.4.1	附属病院事務部長	堀切 豊
転入 H22.4.1	総務課長	佐藤 正尚
転入 H22.4.1	学生課長	中高 克郎
発令 H22.4.1	病院経営課長	五十嵐宏治
転入 H22.4.1	医事課長	武田 和也
転入 H22.4.1	医療連携・相談室長	仁志 宏
転入 H22.4.1	企画財務課主幹兼副課長	根本 達弥
転入 H22.4.1	附属病院事務部病院経営課主幹兼副課長	滝口 勝利
転入 H22.4.1	附属病院事務部医事課主幹兼副課長	佐藤 博

■ 新任あいさつ



福島モデルの進化
産学官「連携」―「連結」
そして「一体化」までの軌跡

副理事長（企画・人材開発担当）
兼企画室長 竹之下 誠 一
（医学部 器官制御外科学講座 教授）

福島県は日本でも有数の医療産業集積地であり、県の政策も医療立県を目指しております。すでに、医科大学を中核にした全国の大学・研究所の連合、福島県、および県内企業群が連携した複合体が構築されております。この強力な産官学連携プラットフォームから多数の様々な成果が生まれ、しかも実用化までの道筋が見える形で整備することができました。この取り組みは国内外でも極めて高い

評価を受け、産学官連携のお手本とされる「福島モデル」として確立されてきました。

医療機関と産業界の連結を促進・支援するとは、具体的には、医療機関でのみ入手可能な「臨床材料と臨床情報」を、産業界での創薬、医療機器開発に最大限活用できるための技術と体制を確立することです。この成果により、“医療機関と産業界を双方向で結合させる”というコンセプトを共有する複数のプロジェクトを並行して実施することができました。現在、大学・企業の研究成果をいち早く臨床へ橋渡しして実用化を図るといった研究開発の大きな流れに、“臨床から開発現場へ”という新たな方向性を付け加えました。密接かつ頻繁なニーズと問題点の双方向フィードバックすることが、ただちに「医療福祉レベルの向上に反映する」という革新的試みと評価されています。

今年度4月から、2つの組織が医科大学内に新設されました。ふくしま医療―産業界エゾン推進室と医療工学講座です。産学官「連携」から「連結」そして「一体化」と、福島モデルは進化し続けています。暁光を見据えて粛々と進みましょう。



教育・研究担当理事兼副学長
就任ごあいさつ

理事（教育・研究担当）

兼副学長 阿部 正文

本年4月1日に教育・研究担当理事兼副学長を拝命いたしました。教育・研究担当理事として大学の基盤である教育と研究を一層充実、発展させることが責務であり、責任の重さを改めて感じています。福島県立医科大学ビジョン2008では教育と研究に関する将来像について3つのことが掲げられています。すなわち(1)「人々の健康を守る優れた医療人を育成し、医療における“福島モデル”の創出を目指します」、(2)「向学心に燃えた“次世代の学生”が集う“魅力”ある大学を目指します」、(3)「“連携力・研究力”で世界に通じる新たな医療の創出を目指します」です。このため大学の教育と研究に関する短・中長期課題として(1)教育：①医学部および看護学部における総合科学教育の検証と、今後の総合科学教育のあり方の検討、②学生への情報伝達手段としての電子化および学務システムの電子化（履修、成績、学籍簿、各種証明、卒後管理等）の導入、③医学部定員増に伴う教育環境整備の一環として医学部総合科学教育実習室の冷房化、(2)研究：①教職員、大学院生、大学院研究生の研究支援を行うための組織体制の確立、②大学内に横断的な共同研究グループの創出、③NEDがんTRプロジェクトの後継プロジェクトの獲得等をあげました。これらの課題を達成するためには全学をあげて、教職員の積極的な連携・協力が必要です。大学の将来は皆さんの双肩に

かかっています。最後に J・F ケネディ大統領の就任演説の一部を引用して結びの言葉とさせていただきます。

「あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたがあなたの国家のために何ができるかを問おうではないか。アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく、われわれと共に人類の自由のために何ができるかを問おうではないか」

(マルチメディア対訳版、ジョン・F・ケネディ大統領就任演説、katokt 訳、制作：パウダ)



就任のごあいさつ

理事 (医療担当)

兼附属病院長 **村川 雅洋**

(医学部 麻酔科学講座 教授)

本年 4 月 1 日付で、理事 (医療担当) 兼附属病院長を拝命しました。当院は法人化後の 4 年、前任の菊地、竹之下両病院長のもと「高度先進医療の充実と健全経営」を図ってまいりました。この間、県からの多大なるバックアップにより、「臓器別診療体制への再編」、「救急救命センターならびにドクターヘリの設置」、「7 対 1 看護体制の実施」、「新医療情報システムの構築」など、県を代表する病院に相応しく生まれ変わりつつあります。引き続き、本院の理念である「健康を支える医療・心温まる医療」の実現に向けて、「かかりつけ医との地域連携の強化」、「固定チームナーシングなどの看護体制の充実」、「栄養部門の改革」「更なる経営の効率化」など山積する課題の解決を図る所存です。また、大学附属病院として重要な使命である「医療人の育成」と「臨床研究の充実」に重点的に取り組む努力をいたします。特に、医師の育成については県からのご支援を受けて医学部入学定員の増加などに取り組んでいただいておりますが、県内唯一の実践教育の場である大学附属病院として、学生、研修医、看護師をはじめ多くの医療人を育成し、県内医療の充実に貢献したいと考えます。また、大学本体との協力のもと、科学技術振興機構から整備を受ける地域産学官共同研究拠点や文部科学省の補助事業「地域イノベーションクラスタープログラム」の中核施設として、臨床研究を推進し、福島独自の新しく高度な先進医療に関する情報発信を行える体制整備を図る所存です。病院の職員が一丸となって目標の実現に向けて邁進していただくようお願い申し上げます。



理事 (「会津医療センター担当」) 兼会津医療センター準備室長 就任ごあいさつ

理事 (会津医療センター担当)

兼会津医療センター準備室長 **棟方 充**

(医学部 呼吸器科学講座 教授)

福島県からの依頼を受け、平成25年2月、福島県立医科大学の新しい附属施設として、会津若松市に診療・研究・教育機能を備えた「会津医療センター」を開設することとなり、このたび担当理事に就任しました。中核都市と広い周辺エリアからなる複数の医療圏を抱える福島県には、大都市中心に設計された医療政策では全くカバーできない多くの問題があります。福島県立医科大学は、このような問題にも積極・果敢に取り組み、これらの問題点を解決する地域医療の「福島モデル」創生を目指しています。「会津医療センター」はこの目的を果たすための重要な施設となります。

「会津医療センター」は附属病院と附属研究所から構成され、230床規模の附属病院は、大学附属病院として最先端の医療を提供し、学生・研修医の教育の場として機能するとともに、他の医療機関との補完的機能を備え、感染症対策・へき地医療支援などの政策医療にも取り組み、地域医療機関との連携・協力により、会津地域全体の医療を支える機能を果たします。松平保科依頼の御薬園での生薬栽培の歴史も踏まえ、全国的にその設置が急がれている「東洋医学講座」の開設も予定しています。



理事就任ごあいさつ

理事 (管理運営担当)

兼事務局長 **藤島 初男**

4月1日に着任して以来、自家用車で桑折町の自宅から医大まで通勤しております。

実は、20年以上前に蓬萊町に住んでいたことがあります。その頃は、町内の並木は背丈も小さくまばらであったのが、現在はうっそうと緑に覆われ、しっとりとした落ち着いた街になり、年月の経過には感慨深いものがあります。春先には、美しい桜も楽しむことができ、自然環境に恵まれたこの光が丘で勤務できることを大変嬉しく感じています。

医大は、平成18年度から公立大学法人に移行して今年で5年目を迎えます。この間、移行に際しての様々な課題を克服するとともに、医学部学生の定員増に対する迅速な対応や病院経営の日々の改善努力などにより、現在、法人としての運営も軌道に乗りつつあります。これもひとえに、教職員の皆様の日々のご努力の賜物と、深く敬意を表する

次第です。

さて、管理運営担当の私に課せられた使命は、持続可能な大学法人としての基礎を盤石にすることだと考えております。

このため、今後、財源や人材をしっかりと確保し、中・長期的な観点から必要となる施設・設備の整備、危機管理体制の構築等に取り組み、医大のミッションである「医療人の育成、医学・看護学の研究及び保健医療の提供等を通じて県民の保健・医療・福祉の向上に貢献する」の達成に全力を尽くしてまいります。

そして、学生や附属病院の患者の皆さんひいては県民の皆さんにとって、医大があって本当に良かったと言われるよう事務局一丸となって取り組んで参りますので、どうぞ、今後ともご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。



良き医療を担う優れた医師の育成をめざして

医学部長 大戸 斉
(医学部 輸血・移植免疫学講座 教授)

福島県立医科大学は源を1871年開設の白河医術講義所に発し、早暁以来139年の長い歴史を有しています。世界的視野で極東アジアの近代化を進めた後藤新平（台湾総督府長）も先人の一人です。さらに光輝く大学として、福島県、医学部、看護学部、附属病院が、使命と課題を相互に理解して、共に対処していくことが重要だと認識しています。

一. 情報の共有による相互信頼の醸成

教員定数の増加など、その成果は着実に医学部と附属病院に還元されてきました。情報を共有して、建設的意見を歓迎しうれば前向きに作用し、自然に大学人の志は収斂し、活動機能は高まるものと信じます。

二. 良質な医師の養成を通じて社会福祉に貢献

良質な医師の養成と研究成果を社会へ還元し、社会福祉へ貢献することが本学の存在基盤です。地域との連携協力のもと、共に働く若い医師の定着は不可欠と認識しています。大学病院の充実なくして、真の医療向上はあり得ず、「福島医大丸」に乗船する気風を、大学を挙げて作って行きたいと願っています。

三. 知的活動は大学の本質的使命

自らが高い位置に目標を設定し、世界に貢献できる優れた研究者の育成と適切なサイエンス風土を醸成して、また貢献した努力と成果が評価されるようにしたいと思います。

四. 未来を切り開く包括的な社会貢献

本学には総合医学学術集合体として多くの智慧が結集され、医学進歩の成果が蓄積されています。福島県と情報と意識の共有を進め、産業にも還元してゆく連携的役割を推進します。



就任ごあいさつ

看護学部長 鈴木 順造
(看護学部 生命科学部門 教授)

近年の医学・医療の進歩は目覚ましいものがあり、今日、看護専門職者には、単なる医療の介助のみではなく、入院・在宅患者の日常生活のQOLを高めることや、地域社会においても病気予防とその後のケアなど安全で質の高い看護サービスの提供が求められてきております。更に、医療制度関連法の改正により、保健・医療・福祉の連携した看護体制の構築に向けた取り組みも重要となってきています。

従って、当学部においては社会の変化に対応した看護専門職の役割を認識し、保健・医療・福祉に関わる広い領域で、将来リーダーとして活躍できる看護師・保健師・助産師を育成しなければなりません。そのために、幅広く看護の魅力や看護専門職の資格取得方法を普及するとともに、学生自身に看護学それ自体を学ばせるばかりではなく、どうやって看護学を学ぶのかを教えることも大切であると考えております。そうすることにより、学生自身に自己主導型学習能力が育成され、統合化された知識の推論技術や問題解決能力を高め、さらには学習に対する動機づけがより明確になり、自分が将来看護専門職に携わっていくことを志した新鮮な気持ちを維持する事ができるものと思います。

また、教職員は、大学人が最優先してきた研究や教育活動に対して社会への説明義務を行いつつ、更なる質の向上を目指す一方で、古今変わらぬ「医療人としての職業的良心」を次世代に伝えてほしいと願っております。

今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



看護学部総合科学部門長就任のごあいさつ

看護学部総合科学部門長 亀田 政則
(総合科学部門 教授)

看護学部総合科学部門は医学・看護学を学ぶために必要不可欠であり、多様にアプリケーション可能な基礎教育にあたっております。現在は、とりわけ、近年の大学生の学力・思考力の低下という全国的状況を顧慮したカリキュラムデザインを基に、学生が無理なく学習を継続できる環境作りをおこなっています。懇切丁寧な教育が総合科学部門のモットーとするところです。

部門の全教員（外国語、心理学、社会学、情報科学の5

名の教員による構成)は総合科学教育研究センターに所属し、その活動範囲は医学部(学部・大学院)と看護学部(学部・大学院)、さらには医療人育成支援センターなどへと拡大してきております。今後は、センターを基軸としました教育・研究、地域貢献が部門に求められますので、部門長としましては、この方面での医学部総合科学系との「一体的な働き」を、いっそう具現してまいりたいと考えております。皆様のご理解とご支援を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。



看護学部生命科学部門長 に就任して

看護学部生命科学部門長 **本多 たかし**
(生命科学部門 教授)

本年4月に看護学部長に就任された鈴木順造教授の後を受けて、看護学部生命科学部門長に就任致しました。本稿では就任のご挨拶をするとともに、看護学部における生命科学部門の役割について若干述べさせていただきます。言うまでもなく、看護学部は本県の看護師教育の中心にあるべき存在ですが、その中で、生命科学部門は看護師の育成に不可欠な医学教育のほぼ全般を担うべく、医学の専門家を集めて組織された特異な集団です。教育面では、解剖生理学、栄養代謝学、病理学、薬理学、病態治療学といった、基礎医学から臨床医学にわたる多分野の講義・実習を分担しています。患者さんの病態を正確に把握できる基礎的な医学知識の習得を達成目標に掲げ、従来のカリキュラムの範囲を超えた教育内容になっていると自負しています。研究面では看護学部棟2階の実験室A(分析学系実験室)・B(形態学系実験室)を整備・管理し、看護学生に対する医学教育を質的に充実させるとともに、自然科学的手法が必要な看護研究に対しても積極的に協力する方針です。また、医学部の講座や学外の研究施設との間で共同研究を行い、我々が本来行うべき医学研究に対する姿勢も保ち続ける努力を行っています。

少ないスタッフの協力を仰ぎつつ努力致しますので、今後とも宜しくお願い致します。



就任ごあいさつ

医学部医学研究科長 **和田 郁夫**
(細胞科学研究部門 教授)

4月より医学研究科長として大学院を担当することとな

りました。これまで本研究科の副委員長を4年間務めました。新たに大学院に責任を持つ立場となり、身が引き締まる思いです。医学研究科長としては珍しいとは思いますが、私の出身は理学部で、大学院は薬学で、医学部に所属したのはポスドク以降です。3学部を渡り歩いてきたこともあって、学生が医療という実務の中に組み込まれている医学の大学院の特殊性、難しさは医学部に入った当初は頭がくらくらするほどでしたし、いまだに強く感じます。一向に和らぐことのない医療を巡る厳しい状況の中でも、最高学府としての期待がかかる医科系大学院が取り組まねばならない大きな課題は、1)現在と将来において各人の能力を伸ばし、世界を広げてくれるような教育システムの構築、2)初期研修制度の施行以降、極端に減少している基礎医学を進める人材の育成、3)大学院教育成果としての学位論文の質の向上、の3点にあると考えています。これらは互いに関連しており、切り離して解決できるものではありません。特に1点目について、大学院を修了して医学研究者のライセンスである博士号を手にした若者をいかに多く本研究科が生み出すかは、本県での医療水準の向上にとってキーとなります。このような課題克服のための仕組みと雰囲気を作ることが、私の職務と考えています。



就任ごあいさつ

総合科学教育研究センター長 **安村 誠司**
(医学部 公衆衛生学講座 教授)

総合科学教育研究センター(以下、センター)は、医学部の総合科学系科目、看護学部の基礎系科目を担当する教員が所属している組織で、いわゆる教養部のことです。両学部におけるこれら科目のより効果的、統一的な実施を目的として、平成20年に設立され、人文社会科学系と自然科学系の2領域があります。

センターとして、本学における教育研究の機能をより効率よく発揮できるよう、自己点検・自己評価を行っており、その結果、以下のことが分かってきました。人文社会科学系領域の例えば、英語教育においては、カリキュラム構築段階から両学部の英語担当教員が共同で協議し、両学部の授業協力を行うなど協力関係が進んでいます。また、自然科学系領域では、学生の理解を促すための少人数制の補習授業、一対一の面接授業を取り入れるなど、学習効果を上げるためのきめ細かな指導・援助の試みがなされつつあります。さらに、研究、地域貢献などでも着実にその成果を上げつつあります。

今後、教育・研究の機能をさらに有効に、かつ効率よく発揮させるための課題として、医学部と看護学部の連携の

一層の強化、大学院教育へのより積極的な関与、さらに、生命科学・社会医学系、臨床医学系との連携した研究の推進などが特に重要と考えられます。センターとしては、これらの課題に対応すべく、所属教員全員で検討を進め、「福島医大モデル」(仮称)と称すべき総合科学教育研究モデルの構築を目指す所存です。



就任ごあいさつ

附属学術情報センター長 上田 和毅
(医学部 形成外科学講座 教授)

平成22年4月から附属学術情報センター長を拝命致しました。図書館長という名前ではなく、情報センター長という名前であることに時代の変遷を感じております。学生時代から図書館には親しんでおり、いつの時代も居心地のいい場所であり、「秋の日の図書館のノートとインクの匂い」という学生歌の文句に実にそぐわしき場所でありました。しかし、時代は「紅旗征戎吾事にあらず」とばかりに聖域をなしてひっそりと存在することを図書館に許してくれなくなりました。来るものを待つ図書館ではなく、こちらから情報を発信し、人を覚醒させる役目を果たさなければならなくなったのです。「古」を守ることから、「新」を創造するために行動する、つまり温故知新どころでなく、温故教知新(新しさを知らしめる)ということです。ITの発達がそれを可能にし、また容易にしたのは幸いです。国立国会図書館では蔵書を電子化して無料で一般に公開しており、われわれは古書価の高い文献を自宅からただで見ることができるようになっています。今回の民主党政権下の事業仕分けでもそうした情報発信のための予算は削られていないと聞きます。この情報発信の流れは国際的なもので、すでに世界の有名図書館は何年も前からそうした情報発信を続けており、日本はそれに引きずられた形での参画です。当大学でもレポジトリの公開を始めていますが、まだ情報発信の必要性が関係者に十分理解されていない面もあります。情報発信はエネルギーを使いますが、どれくらい時代になったと嘆くよりは、楽に情報が入る面、逆にいい時代になったと喜ぶべきでありましょう。時代に先んじて「教知新」の姿勢で、センターをまとめて行きたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。



就任ごあいさつ

医療人育成・支援センター長 福島 哲仁
(医学部 衛生学・予防医学講座 教授)

平成22年4月1日付で、医療人育成・支援センター長を拝命致しました。

医療人育成・支援センターは、「新医師確保総合対策」による医学部入学定員増に対応し、平成20年4月に設立されました。今後学生や研修医数が大幅に増加するため、医学教育や研修の質を確保維持するというのが設立の大きな目的でした。

当センターは、卒前医学教育と卒後臨床研修を一貫して支援する組織であることが大きな特徴で、教育・研修に関して大学の組織を横断的に、また時系列的には縦断的に関わることができます。センターには、医学教育部門と臨床医学教育研修部門の2部門がおかれています。お互いに協力しながらそれぞれの特徴を持った機能を発揮しています。卒前卒後の教育・研修プログラムの改善、スキルラボ・模擬患者導入などシミュレーション教育やITを活用した新たな教育手法の開発についてもセンターで検討が行われています。本年4月に、臨床医学教育研修部門内に女性医師支援担当がおかれ、「医療再生基金事業」の一環として県内全域に対応した“女性医師支援センター”が設置され、女性医師の支援も始まりました。

今年度から当センターは学長の下に置かれ、医学部のみならず大学全体の組織としての位置づけが強化されました。スキルラボの利用や模擬患者の養成などは、既に看護学部と協力して実施しております。看護学教育や看護職のスキルアップについてもセンターの支援が現在模索されています。

社会の医療ニーズに対応し、微力ではございますが大学の発展に貢献してまいりたいと考えております。ご支援ご鞭撻のほど、皆様どうかよろしくお願い申し上げます。



医学部附属実験動物研究施設長就任ごあいさつ

医学部附属実験動物研究施設長
片平 清昭
(医学部 附属実験動物研究施設 准教授・特任教授)

平成22年4月1日に医学部附属実験動物研究施設長を拝命し、その重責に身の引き締まる思いです。医学・生命科学において動物実験の果たす役割が大きいことはいまでもありません。これまで、財政上や施設規模の制約上

から、実験動物の飼育規模拡大や新たな研究機器の導入が困難であり、利用者にはご不便とご迷惑をおかけしている状況もありました。幸いにも、平成21年度補正予算でJST地域産学官共同研究拠点整備事業（ふくしま医療－産業リエゾン支援拠点）が採択された結果、ヒト担当動物飼育室や実験室等の増築、最新の研究機器の設置が可能となり、さまざまな動物実験への活用が期待されます。これを契機に、実験環境の整備を図り動物実験支援体制を一層推進したいと考えております。

一方で、遺伝子組換え動物の増加等もあり、動物福祉や実験倫理面で実験動物や動物実験を取り巻く社会環境がますます厳しくなっております。大学における動物実験は、「動物の愛護及び管理に関する法律（法律第105号）」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省告示第88号）」等を遵守し、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省告示第71号）」に基づき、学長の責任において適正に実施されなければなりません。本学における動物実験の実施状況が、文科省基本指針に適合していることを定期的に自己点検・評価し、しかるべき外部検証を受け、社会的透明性の確保に努めたいと考えております。

以上のように、実験動物研究施設の機能向上と安全管理に努め、諸課題解決のため奮励する所存ですので、関係各位の御協力と御支援をお願い申し上げます。



TRセンター長就任ごあいさつ

トランスレーショナル
リサーチセンター長 **和栗 聡**
(医学部 解剖組織学講座 教授)

本年度4月からトランスレーショナルリサーチ（TR）センター長に就任いたしました和栗です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本センターは理事長直轄施設であり、臨床医学系研究棟1階に一室を構えています。文字通りトランスレーショナルリサーチ（基礎から臨床への橋渡し研究）を行っていますが、実際にはNEDO（独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構）がんTRプロジェクト「遺伝子発現解析技術を活用した個別がん医療の実現と抗がん剤開発の加速」を支援する位置づけにあります。また、その実動部隊である「臨床ゲノム学講座（寄附講座）」を東京に置いています。これまで、1000以上の症例についてがんの遺伝子発現プロファイル（がん特性の指標）の取得に成功しました。その解析から多くのがんマーカーや分子標的薬候補遺伝子が見つかり、これらを製薬企業等に開示すると共に、本学臨床講座の研究テーマが生み出されています。本センターの強

みは、コア技術である独自DNAマイクロアレイ解析と産学官コーディネイト機能にあります。東京の拠点では産業界や省庁と、福島医大では現場医師との打ち合わせを重ねています。本年度の目標は本センター発の論文発表、特許出願、そして本年度設立された「ふくしま医療－産業リエゾン支援拠点」の研究施設工事とその運営に関する側面サポートです。これらをやり遂げることが福島発のがん医療イノベーションにつながると信じ、ここからさらに2番目3番目のTRプロジェクトが育つことを期待します。



特任教授就任ごあいさつ

医療工学講座
特任教授 **尾股 定夫**

この度、平成22年4月1日付けで福島県立医科大学に寄附講座として開設されました医療工学講座に着任いたしました。私自身はこれまで医療機器開発研究を工学的な分野で行ってききましたが、研究成果は研究論文として各方面の学会誌への投稿をはじめとして、ときには特許申請などが主な目的でした。しかしながら医療機器開発研究の最終ゴールは患者様や臨床に携わる医師の手元に届いてはじめて研究の目的を達成することになるのですが、工学的な医療機器開発や技術開発に特化した研究では自ずと限界があります。特に、医療機器は医学と工学との境界領域、すなわち融合から生まれることから、これまでのような工学的なモノづくりに重きを置いた我が国の医療機器産業の視点では、欧米のような優れた医療機器は誕生しにくい。このため、我が国の医療機器産業の創出を図るには、従来のような医工連携による取り組みから「医工連結」、「医工一体」化に向けた取り組みを積極的に展開することが重要となる。この度の寄附講座である「医療工学講座」は、我が国の不得意分野である先進的な医療機器を、この福島県立医科大学から世界に発信できるように微力ながら貢献したいと思っています。特に、この度の最初の取り組みとして、半導体レーザー素子を利用して世界初の「カフ無し非侵襲連続血圧計」を、皮膚にセンサ素子を貼るだけで測定できる携帯型血圧計として実現を目指します。この新しい血圧計は、救急や周術期医療のみならず、遠隔医療にも展開できる可能性を秘め、世界市場にも大きな貢献が期待されています。



教授就任ごあいさつ

医学部 器官制御外科学講座
教授 鈴木 眞一

平成22年6月1日付けにて、器官制御外科学講座教授（主任教授：竹之下誠一先生）を拝命致しました。二年前に、乳腺・内分泌・甲状腺外科部長および附属病院教授を拝命しておりましたが、今回、医学部教授を拝命致しました。

私は、昭和58年本学を卒業と同時に外科学第二講座に入局し、乳癌の骨転移の研究で医学博士号を戴きました。2001年～2002年には竹之下教授のご高配により米国カリフォルニア州サンディエゴのBurnham 研究所でTelomerase や癌遺伝子研究を行って来ました。帰国後は病棟の臓器別再編や外来の診療科再編に伴い、内分泌外科を専門として診療、研究、教育に努めて参りました。特に手術においては甲状腺、副甲状腺、副腎の内視鏡手術の開発・発展に尽力しております。

外科学に課せられた使命は病態解明や新しい診断・治療法の開発に寄与するだけでなく、基礎医学の臨床応用にも貢献しなければなりません。外科医不足が騒がれる昨今ですが、優れた外科医を数多く養成すべく、教育、研究、診療に関する明確な理念を確立し、実践することが重要と考えます。乳腺・内分泌・甲状腺外科領域もそれぞれ専門医制度が確立した今日、その専門性を生かした教育、診療、研究を行うことによって、本学から多くの乳腺・内分泌・甲状腺外科専門医を養成できるように努めたいと考えております。浅学非才の身ではありますが、どうか皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

諸規程改正

■ 平成22年2月から5月までの主な諸規程の制定改廃関係

- 「福島県立医科大学医学部教授会規程」の一部改正（平成22年2月23日制定・4月1日施行）
医学部の予算、組織及び教員適任者の選考等の審議は、講座主任及び研究主任とする改正を行いました。
- 「福島県立医科大学大学院看護学研究科表彰規程」の制定（平成22年2月26日制定・4月1日施行）
大学院看護学研究科学生の修士論文が特に優れていると認められる学生に対して表彰を行う規程を制定しました。
- 「福島県立医科大学医学部総合科学系教員体制等検討委員会規程」の制定（平成22年2月25日制定・4月1日施行）
医学部総合科学系講座の教員選考等の検討を行う委員会を設置する規程を制定しました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成22年3月30日制定・4月1日施行）
大学諸料金の実習料について、実習生1人につき日額700円だったものを、実習生の派遣元との契約により定める額に改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学会計規程」の一部改正（平成22年3月31日制定・3月31日施行）
会計基準の改定により、法人の会計規程に減損処理を行う旨の一部改正を行いました。
- 「福島県立医科大学会津医療センター準備室規程」（平成22年3月31日制定・4月1日施行）
平成24年に開院予定の会津医療センター（仮称）の開設準備を行うため設置される会津医療センター準備室に関し必要な規程を制定しました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正（平成22年3月31日制定・4月1日施行）
平成22年度の組織改編にともなう、理事の担当、大学内部組織の職の名称、大学付属施設の組織名称及び職名等について所要の改正を行いました。
- 「福島県立医科大学部局長等選考規程」の一部改正（平成22年3月31日制定・4月1日施行）
会津医療センター準備室長の設置にともなう、部局長等の選考規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学福島県立医科大学職員の職の格付に関する規程」の一部改正（平成22年3月31日制定・4月1日施行）
大学組織及び運営規程の一部改正にともない、医療職給料表（一）格付表を追加する規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員の定年に関する規程」の一部改正（平成22年3月30日制定・4月1日施行）
定年による退職の特例に、医師及び歯科医師を追加する規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程」の一部改正（平成22年4月1日制定・4月1日施行）
平成22年度の組織改編にともない、文書の管理体制、文書の記号、決裁区分等の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学文書管理規程」の一部改正（平成22年4月1日制定・4月1日施行）
平成22年度の組織改編にともない、共通専決事項、特定専決事項、決裁権者等の一部改正を行いました。
- 「福島県立医科大学看護学部副看護学部長選考規程」の制定（平成22年4月1日制定・4月1日施行）
看護学部長を補佐、代理する職として、副看護学部長の職を設置するための規程を制定しました。

- 「公立大学法人福島県立医科大学職員就業規則」の一部改正
(平成22年3月31日制定・4月1日施行)
大学職員の勤務時間について「1週間当たり40時間、1日当たり8時間」を「1週間当たり38時間45分、1日当たり7時間45分」に変更、終業時刻を「午後5時30分」から「午後5時15分」に変更、子育て休暇について「対象となる子供の人数にかかわらず一律年7日間以内」を「対象である子が1人の場合は年7日間以内、2人以上である場合には年10日間以内」に変更、他に会津医療センターに配置された医師及び歯科医師の勤務時間等の制定、育児短時間勤務の時間変更等の改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員兼業規程」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
大学職員就業規則の改正に伴い、勤務時間中に従事できる兼業の時間の限度が、「8時間」から「7時間45分」に変更となる旨の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学准職員就業規則」の一部改正
(平成22年3月31日制定・4月1日施行)
准勤職員の一日当たりの勤務時間の変更、年次有給休暇の取得単位の変更等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学非常勤職員就業規則」の一部改正
(平成22年3月31日制定・4月1日施行)
非常勤職員の一日当たりの所定労働時間の変更、年次有給休暇の取得単位の変更等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学病院助手就業規則」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
病院助手の1日当たりの勤務時間の短縮に伴う変更、病院等特殊業務手当の新設等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学後期研修医就業規則」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
後期研修医の1日当たりの勤務時間の短縮に伴う変更、病院等特殊業務手当の新設等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
研修歯科医の1日当たりの勤務時間の短縮に伴う変更、給与の支給日等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
臨床研修医の1日当たりの勤務時間の短縮に伴う変更、給与の支給日等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員服務規程」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
教育研究担当理事が兼務する職の解除等の規程の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学の休日及び執務時間に関する規程」の一部改正
(平成22年3月31日制定・4月1日施行)
1日当たりの勤務時間変更に伴い、法人の執務時間を「午前8時30分から午後5時30分」から「午前8時30分から午後5時15分」に変更する旨の一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」の一部改正
(平成22年4月1日制定・4月1日施行)
大学職員就業規則の改正に伴い、勤務時間の特例、超勤代休時間等関連部分についての一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員の育児休業等に関する規程」の一部改正
(平成22年3月31日制定・4月1日施行)
大学職員就業規則の改正に伴い、育児短時間勤務職員についての特例、修学部分休業の承認等関連部分についての一部改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学知的財産取扱規程」の一部改正
(平成22年5月20日制定・5月20日施行)
知的財産の出願から取得までの間に行う出願審査請求や取り下げ等に関する規程の一部を改正しました。
- 「福島県立医科大学看護学部教員の海外出張に関する規程」の一部改正
(平成22年5月18日制定・5月18日施行)
外部予算を財源として出張する場合には看護学部研究予算委員会の審査を要しない旨の改正を行いました。
- 「福島県立医科大学看護学部入学試験委員会規程」の一部改正について
(平成22年5月10日制定・5月10日施行)
看護学部長の就任時における、組織運営体制の速やかな移行をはかるため、学部長又は学部長候補者の指名に基づき、教授会の議を経て学部長が入試委員長を選任する規程の改正を行いました。

役員会・経営審議会・ 教育研究審議会・医学部 教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成22年3月24日 第12回役員会】

- 寄附講座の設置
次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。
(名称) 医療工学講座
(設置期間) 平成22年4月1日～平成25年3月31日(3年間)
(研究テーマ) カフ無し連続血流・血圧計の開発

■ 経営審議会

【平成22年3月18日 第4回経営審議会】

- 平成22年度年度計画（案）について
平成22年度年度計画（案）が承認された。
- 平成21年度法人当初予算（案）
平成21年度法人当初予算（案）が承認された。

【平成22年6月18日 第1回経営審議会】

- 平成21年度業務実績報告書（案）について
平成21年度業務実績報告書（案）が承認された。
- 平成21年度決算（案）
平成21年度決算（案）が承認された。

■ 教育研究審議会

【平成22年3月18日 第4回教育研究審議会】

- 平成22年度年度計画（案）について
平成22年度年度計画（案）が承認された。

【平成22年6月17日 第1回教育研究審議会】

- 公立大学法人福島県立医科大学理事長選考会議委員の選出について
委員の任期満了に伴い現在欠員となっている選考会議委員について投票が行われ、投票の結果、阿部委員、大戸委員、鈴木委員の3名が委員に選出され、上田委員が補充委員として指名された。
- 平成21年度業務実績報告書（案）について
平成21年度業務実績報告書（案）が承認された。
- 自己評価書（案）について
学校教育法の規定により、教育等の状況について7年以内ごとに国から認証された評価機関による評価を、本年度に受審することに伴い作成された自己評価書（案）について承認された。

■ 医学部教授会

【平成22年3月17日 定例教授会】

- 医学部予算委員会委員の選任について
次のおり選任された。
和栗教授（解剖・組織学講座）
安村教授（公衆衛生学講座）
後藤教授（臓器再生外科学講座）
横山教授（心臓血管外科学講座）
岡田教授（自然科学講座）
- 医学部教務委員会委員の選任について
次のおり選任された。
挾間教授（細胞統合生理学）
橋本教授（生化学講座）
大平教授（消化器・リウマチ膠原病内科学講座）
後藤教授（臓器再生外科学講座）

- 齋藤教授（脳神経外科学講座）
山本教授（皮膚科学講座）
葛西教授（地域・家庭医療学講座）
松岡教授（自然科学講座）
- 医学部入学試験委員会委員の選任について
次のおり選任された。
千葉教授（基礎病理学講座）
福島教授（衛生学・予防医学講座）
小林（和）教授（生体機能研究部門）
藤森教授（産科婦人科学講座）
清水教授（人間科学講座）
大平教授（消化器・リウマチ膠原病内科学講座）

【健康診断担当】

- 任期は、平成22年4月から2年間
（ただし、健康診断担当の任期は1年間）
- 附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について
次のおり推薦され、その後、理事長から任命された。
和栗教授（解剖・組織学講座）
初沢准教授（細胞化学研究部門）
金光教授（感染制御・臨床検査医学講座）
矢吹准教授（リハビリテーションセンター）
小林教授（自然科学講座）
中川講師（人間科学講座）

【平成22年6月18日 定例教授会】

- 倫理委員会委員の推薦について
次のおり推薦され、その後、学長から任命された。
橋本教授（生化学講座）
千葉教授（基礎病理学講座）
山本教授（皮膚科学講座）
紺野教授（整形外科科学講座）

■ 看護学部教授会

【平成22年3月16日 定例教授会】

- 副看護学部長の設置について
平成22年度から、副看護学部長の職を新設し、学部長が部門長の中から選任することが諮られ、承認された。

【平成22年6月15日 定例教授会】

- 倫理委員会の推薦について
次のおり推薦され、その後、学長から任命された。
太田教授（家族看護学部門）
黒田教授（ケアシステム開発部門）

雑 報

■ 倫理委員会の会議概要のWEB化について

各種指針で公表が義務づけられている倫理委員会に関する会議概要の情報を学報に掲載していましたが、本学の大学ホームページにより公開することになりました。

本学の大学ホームページのリンク先は <http://www.fmu.ac.jp/> になります。内容についてはそちらをご覧ください。

■ 寄附講座の開設について

本学では次のとおり、寄附講座を開設しました。

- 名 称
医療工学講座
- 設置期間
平成22年4月1日～平成25年3月31日（3年間）
- 寄附者名
（株）アドテックス
- 設置場所
福島県福島市光が丘1番地
（公立大学法人 福島県立医科大学内）
- 研究体制
特任教授：尾股定夫
准教授：福島俊彦
- 研究テーマ：
「カフ（圧迫帯）無し連続血流・血圧計の開発」

■ 講座の新設について

- 平成22年4月1日から下記の3講座が新設されました。
救急医療学講座、輸血・移植免疫学講座、地域・家庭医療学講座
- ※〈附属病院〉
診療科：救急科 中央診療施設：輸血・移植免疫部、地域・家庭医療部

■ 学生の部活動報告

管弦楽団

医学部3年 網 干 岳

私たち管弦楽団は現在、68名もの大人数で活動を行っています。主な演奏会は、7月上旬に福島医大付属病院ロビーで患者の方々に演奏を聴いていただくサマーコンサートと、1月中旬に福島市内の大ホールを借りて演奏する定期演奏会の2つです。定期演奏会では毎年プロの指揮者の方をお招きし、本格的なクラシック曲を演奏します。他にも、ここ3年間は雪うさぎの会の方々に招きいただき演奏させていただいています。



常時活動は月、火、木の週3日、第1、2講義室を借りて活動しています。主には演奏会に向けての曲の練習を行いますが、後輩への指導や、有志で集まって少人数でのアンサンブルなども楽しんでいます。新入部員には高校の部活や個人の習い事で楽器をしてきた人だけでなく、大学から楽器を始める人も大勢います。初めは音符も読めなかった人も、先輩の熱心な指導と本人の努力によって、翌年には交響曲を楽しんで一緒に演奏しています。



前回の定期演奏会ではブラームスの交響曲第二番をメイン曲として演奏しました。昨年はチャイコフスキーの交響曲第5番、一昨年はドヴォルザークの交響曲9番「新世界」と、年々、ダイナミックな曲にも挑戦しています。大人数で音楽をすることの魅力として、やはり、その分感動も大きいことが一番の魅力だと感じています。演奏がダイ

ナミックになるということもそうですが、何より、大人数で息の合った演奏ができたときの鳥肌は誰もが病みつきになると思います。しかしそのためには練習が必要です。練習すればするほど、演奏自体のレベルが向上するだけでなく、曲に対する思い入れや演奏会への士気も高まります。素晴らしい演奏ができた後の打ち上げのお酒は格別です。



さて、私たちは今年も新入部員を18名も迎えることができました。近年ではなんと毎年20名近くが入部しており、ここ5、6年で部活の規模が激変しました。反面、大学の楽器の数には限りがあるため、部員増加に伴い楽器が不足してしまうという事態が起きています。しかしOB・OGの先生方のご協力を賜り、毎年、新しい楽器を部で購入することができています。こうして私たちは以前では楽器不足で演奏不可能だった大曲に挑戦するなど、活動の幅をさらに広げることができました。顧問の阿部先生を始め、私たちの活動を温かく支えてくださっているOB・OGの方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

写真は昨年のサマーコンサートの演奏の様子です。

編集発行 公立大学法人福島県立医科大学
事務局企画財務課
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024 (547) 1013 FAX 024 (547) 1991